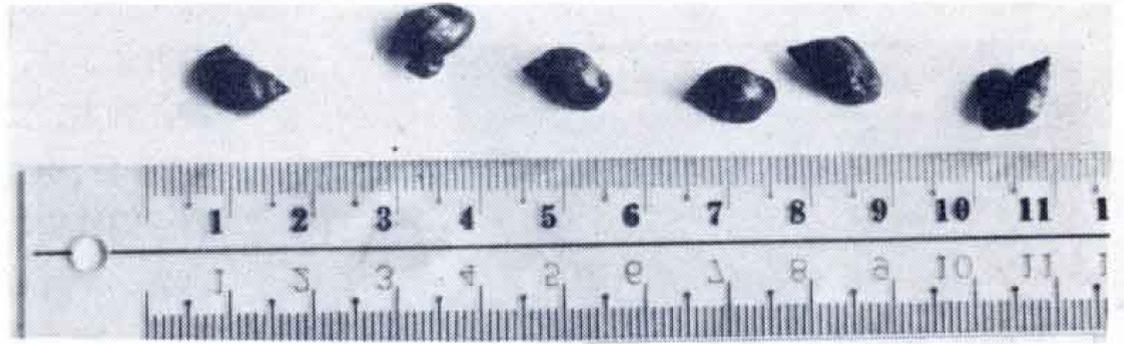


ムクドリ性住血吸虫が異常発生 素足で田んぼに入らない

市内の田子浦地区をはじめ市内全域にわたって田んぼや小川にムクドリ性住血吸虫が多量に発生、農家の人たちが被害を受けています。

市農政課では、素足で田んぼに入らないよう注意を呼びかけています。このムクドリ性住血吸虫は、田んぼや小川のヨドミに生息していて人間の毛穴からヒフに入り、水ブクレとかカユミが1週間から10日ぐらいつづきます。この住血吸虫は肉眼では見えない小さなもので、ヒフに入ってから2~3日で死ぬが人体には影響がありません。同住血吸虫は、ムクドリ、スズメ、カラスなどに幼虫が



つき、これらの鳥が田んぼや小川に水を飲むときに落ちて水の中に入り大きき約1~2mmぐらいのヒメモノアラ貝に中間寄主して成長、水温が20度ぐらいになると貝から離れて水中を遊泳、田んぼで作業している人たちのヒフに侵入します。

発生の原因は、最近、強い農薬が使われなくなったため、ここ数年、

異常発生したものと見られています。対策としては差しあたりサンサイド粒剤又は同粉剤を反当り3~4kg散布すれば死滅します。

なお田んぼに入るときは手袋、足袋、靴下などをはくよう指導しています。

【写真・住血吸虫が中間寄主するヒメモノアラ貝】

山を甘くみるな!!

遭難の8割が“無謀登山”

富士山をはじめ愛鷹連峰をひかえている市では、夏山シーズンに入り事故のない楽しい登山に……と山のぼりのマナーを守るよう市民に呼びかけています。

山には多くのキケンがひそんでいます。登山者が山をよく知らないために起こるキケンなどいろいろです。

山の遭難には、いま少し事前の準備や注意をおこたらなければ事故にならなかったというケースが多く見られます。登山の前に、かならず基本的なチェックを忘れないでください。

山の気象は

くるくるかわる

フモトは夏でも、山は冬じたく。山は平地と気象条件が違う上に、天気が激しく変化します。

夏だからといって軽装で出かける

などはもっての外です。1000m高くなるごとに気温は摂氏6度低くなり雨でも降ろうものなら、さらに気温は下がります。



遭難の多くは、天候の変化が直接間接に影響して、発病したり、道に迷ったり、転落したり、凍死などによるものです。

体調を整えてから

遭難事故で一番多いのは転落が全体の50%ですが、次いで病気、過労が22%と続いています。

病気による事故はとくに50才以上

の高令者に多く、急性の心不全、肺炎、気管支炎や腹痛などが目立っています。出発前の健康診断、それに適度なトレーニングを欠かさないようになりたいものです。

登山計画書の提出

登山の前には、最寄りの警察、派

出所をはじめ所属する山岳団体などに登山計画書を提出することになっています。ところが遭難事故の8割が計画書を出していない“無謀登山”です。計画書を出していれば万一事故にあっても救援活動がスムーズにはこび被害を最小限に食い止めることができるのです。登山計画書の提出は、登山者の義務であることをお忘れなく。